

元氣 甲州人



ほりうち・たけるさん 富士河口湖町出身。富士河口湖高一早稲田大政治経済学部卒。2010年に弁護士登録。東京都内の法律事務所勤務を経て、2015年に独立して現在の富士桜法律事務所を設立した。東京弁護士会所属。東京都三鷹市。35歳。

は、全てを決定する権限がなかった。「自分で全部やらなければ気が済まない性分」というだけに、上司の指示に納得できないことも。だが、民事、家事、刑事と一通りの事件を手掛け、得意分野となった金融事件の経験を積んだ、5年余りにわたる二つの事務所での勤務が、弁護士としての土台を築いた。

独立直後から事務所の経営は順調だが、「初心は忘れたくない」という。事件を多く抱えるほど、数字上、一つ一つの依頼は全体の何百分の一にすぎなくなる。だからこそ「依頼者にとっては『1分の1』の重大事。常に1分の1の依頼として『懇切丁寧』を心掛け、全力を尽くしている。これも性分です」と熱っぽく語る。

目の前の「一人」に全力

山梨に帰る機会が多いという。山梨から舞い込む依頼も少なくなく、毎月数回は地裁や支部がある甲府、都留に足を運ぶ。「古里への恩返しと言つと照れくさいが、山梨の人が困っているのならば役立ちたい」。事務所名は山梨の県花から採った。富士山にフジザクラをデザインした事務所のロゴも「とても気に入っているんですよ。古里への愛着がにじむ」。

を救うことはできる。二者択一のジレンマに対して、目の前の人を助ける方を選びたい」
今数多く扱う金融事件では、銀行

3年前に独立し、東京・四谷に「富士桜法律事務所」を構える。民事、刑事と幅広く扱う中で金融取引関連の弁護士を選んだ。「結果として、事件を得意とする。「一つ一つの事件に全力を尽くす」と、弁護士になった時の初心を貫く。

学生時代、政治経済学部

で政治を学ぶ一方で、弁護士を志した。「会社で働くことを想像できなかった」という。1、2年はバンド活動に明け暮れた。3年で法律の勉強を始め、4年で初挑戦した旧司法試験は不合格。それでも中央大法科大学院に通い、3回目の挑戦で難関の旧司法試験を突破した。

大学で政治を学んだ時に感じたことがある。「政治は世の中全体を良くすることはできるが、目の前の困っている一人を助けることには割と無力だ。弁護士は、社会全体を変え

ることは難しくても、目の前の人

独立前の勤務弁護士だった頃に

当初は検察官の道も考えた。だが、

無効だ。弁護士は、社会全体を変え

ることは難しくても、目の前の人

独立前の勤務弁護士だった頃に